

## 天声人語

登校中の女の子は、ふだんと変わらぬ楽しい1日を思い描いていたことだろう。通学路沿いの塀には陽気な絵が描かれていた。木と花、恐竜の笑顔、揺れるブランコー。夏も目前、塀の向こうのプールは満々と水をたたえていた▼午前7時58分、強い揺れとともにその塀が倒れた。通り慣れた小学校の見慣れた壁である。よもや突然崩れ落ちるとは想像だにしなかっただろう。少女が犠牲になつた校門脇では昨夜、白や黄の真新しい花束が雨に濡れていた▼高槻市の小学校から南西へ約10キロ、大阪市内の住宅街でも80歳の男性が、倒れたブロック塀の犠牲になつた。登校児の「見守り隊」に向かう途中だったという。道路に沿つて碎け散つたコンクリートが、落下の衝撃を物語る▼思い出すのは、ちょうど40年前の6月に起きた宮城県沖地震である。犠牲者28人のうち約半数がブロック塀や石塀の下敷きになつた。これを教訓にして、国は鉄筋で縦横に固定するなど細かな設置基準を定めた▼阪神・淡路、中越、東日本、熊本。相次ぐ災禍をへて日本列島では揺れに備えようという意識が高まってきた。公共施設や商用ビル、校舎などでは年ごとに耐震補強も進む。一方で、身近な塀にまでは手が回らなかつたのだろうか。見慣れた塀が一瞬で凶器に変わってしまう。そのリスクから無縁の地域はどこにもない▼近畿一円ではきのう余震が相次いだ。不安にさいなまれる夜はいつやむのだろう。予報ではしばらく重い梅雨空が続く。

2018・6・19